

平成 23 年 9 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 23 年 第 7 回講話

先ほど論語の素読をして戴きました。練習の成果がありありと見える素読でした。中斎塾フォーラムに参加して論語素読に初めて触れた方が、練習をすると、今日のように上手になるのだなと感じました。

論語の素読は、慣れてくると中身が少し見えてくる。そしてだんだん強弱をつけられるようになります。そうするとまた違った読み方になりますので、是非努力を続けて戴きたいと思います。

素読をして戴いた中で、「煥乎たり」という文章がありました。前橋にある書店の煥乎堂さんは、ここから名前をとっています。私は実際に煥乎堂の常務さんにお聞きして、間違いないということでした。このように論語の中から社名や店名をつけるのは結構あります。三省堂も「吾 日に三たび吾身を省る」からとっています。「三たび」とは、何回もという意味です。

論語に親しんで、この文章はいいなと思うと、その一節が自然と口に出ます。皆さんも何か一つでも自分の氣にいった文章を見つけられるとよろしい。それは繰り返しお願い致します。

自分なりの健康法

5 年くらい前から私は、8 月は長い休みを取るのが普通になっています。1 ヶ月まるまる休みを取れなくても、1 週間に 2 日でも 3 日でも連休がとれると、氣分的にかなり変わります。50 代後半になると体力的に翳りが出るから、意識的にリラックスする時間を持つと良いでしょう。60 歳を過ぎたら、休養日を少し増やさないと身体がなかなか元に戻りません。70 代になったら、次の仕事に取り掛かるまでの間隔を、中 2 日とか 3 日、しっかりとるようにする。

ということで、1 年間で連休を取るという時期を意識的に作られると良いと思います。それを私は 8 月にしています。皆さんにお聞きしますが、前回のフォーラムから今日まで、連休をとった方？・・・3 日以上取れた方？・・・1 週間くらい取れた方？

・・・お一人いらっしゃいました。

ある程度年配になったら、1ヶ月のなかで2日くらいは連休をとるようにした方がよろしいでしょう。現役の社長をやっているとなかなか難しいかもしれませんが、出来得る限り連休をとって、1年間トータルで見ると1週間くらいとれるとよろしいですね。

では、恒例の質問を致します。

前回のフォーラムから2ヶ月、ほとんど嘘をつかなかった方？

2ヶ月間、有難うと言ひ、有難うと言われた方？

自分なりの健康法を考えて、日々実践している方？

皆さん年を重ねてくると、自然と何かやり出すようです。私の母親は今年23日で95歳になりますが、朝目覚めてからベッドの上で身体中をマッサージしています。マッサージをして身体中に血液が流れ出したのを確認してから、起きて動き始める。

私も健康法の一つとして、最近、意識してふくらはぎのマッサージをしています。ふくらはぎは第二の心臓といわれています。足に流れていく血液を上を押し上げるポンプの役目を持っています。その力が、だんだんと衰えたような感じがするのです。以前は、舘野先生と道場で朝稽古をしていましたので、お互いに踏ん張りあって押し合いをすると、足が活性化されて血液がどくんどくと上に上がってくる実感がありました。舘野先生が亡くなられてから、会社の若い社員と押し相撲のようなことをしていますが、120キロもある若い体力のある社員に押させても、コツを知らないのか、舘野先生のような威力はありません。仕方なく自分でふくらはぎを下から上に血液を押し上げるような格好でマッサージしていますが、これが若い社員と道場でぶつかり合うより、はるかに効きます。

どうぞ自分なりの健康法をお持ちでない方は、是非見つけるようお勧めします。

壬申 干支学から

平成23年は「辛卯(しんぼう)」です。「辛」は、文字通り辛く・酷く悲しい。「卯」は、大量の羊を生け贄で殺して供えるという意味です。ですから私は昨年末から、今年は辛く酷く苦しい体験をする。そして大量の人々が死ぬとお話してきました。

では、来年はどうか。来年は壬申(じんしん・みずのえたつ)です。ニューリーダーが色々出てきて力を発揮しようとするけれども、発揮できない。来年はまだまだ弱い。経済はやはり落ちていくというめぐり合わせの年です。

野田内閣が生まれたけれども、実力を発揮できるかというと、なかなか難しい。足を引っ張られる。ご本人に経綸の志はあるのですが、具体的なものはちょっと苦しいと感

じます。したがって来年（壬申）は落ちます。その次の年も落ちます。その次の年もまだ落ちます。干支から見ると、4年後にようやく上昇気流に日本は転じると感じます。ですから4年後を意識して自助努力をされるとよいでしょう。

シムックスは今月、社長交代を致しました。上毛新聞には「64歳前社長から、30歳の新社長へ若返り」とありました。改めて新聞の活字を見ると、社長交代で34歳も若返ったのかと感じます。世の中はどんどん変わっていきますから、色々な形で自分自身を変えたとしたら、10年、15年という単位の変え方を意識されるとよいと思います。会社であれ政府であれ、組織体というものはトップを代えればかなり若返ることが出来ます。しかし自分自身の若返りは、なかなか難しい。私の実感ですが、必死になって仕事をしていて、50代過ぎてからどんどん体力的にきつくなってきて、55の坂を越した時に家内から「もう辞めないで命が無いですよ」と言われ、58歳で社長業をバトンタッチしました。そうしましたら、疲れ方がまるで変わりました。知らず知らずの間に身体に疲れが溜まり、淀んでいたのだと思います。

8月は赤城にこもって、本当は本を読んで文章を書くつもりだったのですが、最近、本を書く時に事前の準備に相当時間がかかるようになりました。今回は1行も書けませんでした。というのは、赤城にダンボールが沢山ありまして、18歳頃からの日記の山や、人様から貰った手紙、他にも写真の山、それらの整理で1ヶ月近くかかってしまいました。ダンボールを開けると、埃が溜まっていてさわれないような状態で、30年40年の埃は凄いなとか、色あせも酷いなという実感を持ちました。

翻って、自分の身体も頭も自分では元気でクリアだと思っけていても、歳を加えれば加えるほど身ざれいにして、身体の垢をとったり頭の中のカスを払ってやらないと、若い人に伍してやっていく、いわんや引っ張っていくというのは難しからうと思います。ですから意識して、意識して、研磨する必要があると思います。

今日の論語

【十六】 しいわ子曰く、きょう狂にしてちよく直ならず、どう侗にしてげん愿ならず、こうこう慳慳としてしん信ならざるは、われ吾 これ之をし知らず。

孔子が言うには、志が大きくて小事にこだわらないが正直ではない。青二才で物を知

らないくせに、真面目に物事に対処しない。無知無能で誠実でない。こういう人物を私はどうすればよいか分からない。

大風呂敷を広げて吹くだけ吹いて、小さいことにこだわらないが、後始末が出来ない。無知なのに生真面目に物事をやらない。自分が無知無能であることもあまり感じないで、人様に対して不誠実である。私はこういう人間をどのように指導してよいか分からない。こういう人間は、習いに来ても教える甲斐が無いということです。

「狂」とは、志が大きくて小さいことにはこだわらない。例えば坂本竜馬や高杉晋作、それに明治維新の三傑といわれるような人達です。坂本竜馬は自分の所属する土佐藩からお金をどんどん持ち出すのが得意で、皆で飲んでばら撒いてしまう。その後始末をしたのが、三菱を創った岩崎弥太郎です。岩崎弥太郎は坂本竜馬のマイナス面を、一所懸命尻拭いをしたわけです。坂本竜馬のように志が大きくて明治維新の原動力になったような人でも、小事にこだわらないから魅力があったのではないかと思います。日本人で最初に新婚旅行をしたとか、色々なエピソードが付いて実に面白いと感じます。

今回の所信表明演説で、野田首相が「正心誠意」という言葉を使いました。普通「正心」とは書きませんから、あらかじめマスコミに流したのだと思います。

孔子でさえ不誠実な人間は教える甲斐がないと言っているのだから、周りを見渡して、そういう人間がいたなら、一所懸命教えることはありません。一所懸命教えて、自分の体力氣力がなくなる方が怖い。

私の体験談で申しますと、会社で或る社員に、あなたの考え方はここがおかしいからこう直した方がいいよ・・・と半日かけて事細かく説明したところ、「よく分かりました。今後は注意します」という返事をもらったので、やれやれ良かったと思って最後にちょっと質問をしたら、私の言っている事がまるっきり分かっていなかった。そうしましたら、視界がずっと暗くなって、視力がかなり落ちた経験があります。それ以来、どうにもならないなと思った人には、全身全霊を傾けて何かするというのは止めました。

【十七】 しいわ 子曰く、がく およ 学は及ばざるが如くことするも、なお これ うしな 猶之を失おそわんことを恐る。

孔子が言うには、学問とは一所懸命勉強しても、もう十分だとはならない。まだ足りない、まだ足りないと思って勉強する。それが普通である。どれだけ学んでも、自分が覚えたことをちょっとした心違いで取り逃がすことがあるので、氣をつけないといけない。

【十八】 しいわ 子曰く、ぎぎこ 巍巍乎たり、しゅんう てんか たも 舜禹の天下を有つや。しこう あずか 而して与らず。

舜も禹も、伝説となっている理想の君主です。

「巍巍乎たり」とは、妙義山を下から眺めると、ああ高いなと思う。富士山の裾野をみれば、ああ広いな・たいしたものだと思う。そういう感じで捉えればよいでしょう。

孔子が言うには、舜と禹という王朝の君は素晴らしい。天下の政をするにあたって、実務は賢い人間に任せて、自分は直接タッチしない。人材を活かして天下を保っている。たいしたものだ。

自分の所属している組織に置き換えてみればよろしいでしょう。

今回、野田さんが「適材適所」と口では言いましたが、民主党の無様な手については前から申している通りで、不適財不適所という動きがいくつも出てきています。本当に適材適所とは難しいものです。

【十九】 しいわ 子曰く、だい 大なるかな、ぎょう きみた 堯の君為るや。ぎぎこ 巍巍乎たり、ただ てん だい 唯天を大なりと為す。
ただ 唯 ぎょう 堯 これ 之に のつと 則る。どうとうこ 蕩蕩乎たり、たみよ 民能く な 名づくること無し。な 巍巍乎たり、ぎぎこ 其の そ 成功 せいこうあ 有ること。かんこ 煥乎たり、そ 其の ぶんしょうあ 文章 あ 有ること。

堯も神話となっている理想の君主で、舜・禹の一時代前です。

孔子が言うには、堯の君主たる様子は堂々として素晴らしい。堯帝と並び称されるのは、天しかないだろう。(天と堯は同格だと孔子は感じています。)

民は堯帝の統治のもと、ゆったりのんびりして仕事ができる。そういう中にいると、国民は素晴らしさが分からないので、具体的に表現はしないものだ。その治績の成就是素晴らしい。礼楽制度(文化)を作り上げたことは光り輝いている。

「蕩蕩乎たり、民能く名づくること無し」の部分は説話があって、堯帝が自分の国を見回った時に、お百姓さんが「自分の生活は毎日が充実している。私は国の世話にはなっていない」と独り言を言っているのを聞いて、自分の存在を忘れるくらいに民百姓は満足しているのだと喜んだとあります。

中国の神話の時代は実に素晴らしい、と孔子が絶賛していると捉えればよいでしょう。

これを現代に当てはめてみて、「煥乎たり、その業績」と会社の中で言えれば、その会社

は更に伸び続けることでしょうし、国であれば発展するでしょう。しかし今は坂道を転げ落ちていきますから、そういう国も会社もないでしょう。

【二十】 舜^{しゅん} 臣^{しん}五人^{ごにん}有りて、天下^{てんか}治^{おさ}まる。武王^{ぶおう}曰^{いわ}く、予^よに乱^{らん}臣^{しん}十^{じゅう}人^{にん}有り^あと。孔子^{こうし}曰^{いわ}く、才^{さい}難^{かた}しと。其^それ然^{しか}らざらんや。唐^{とう}虞^ぐの際^{さい}、斯^これ於^より盛^{さかん}なりと為^なす。婦人^{ふじん}有り、九^く人^{にん}のみ。天下^{てんか}を三分^{さんぶん}して其^その二^にを有^{たも}ち、以^{もつ}て殷^{いん}に服^{ふく}事^じす。周^{しゅう}の徳^{とく}は、其^それ至^し徳^{とく}と謂^いうべきのみと。

舜帝には人材が五人いるので、天下を治めることは十分できる。

それを聞いて武王が、「私には、乱れきった世の中を治める人材（賢い臣下）が十人いる」と言った。

孔子が言うには、人材はなかなか得難いものだ。本当にそうだと私は思っている。唐（堯）と虞（舜）が禪讓で継承した時よりも、周は人材が豊富で国は栄えた。十人の人材のうち一人は婦人であるから、賢臣は九人である。周の文王は天下の三分の二が周に帰服していて、殷に代わって天下を取ることが出来たのに、その力を以って自分の主である殷王朝を守った。まったく周の徳は至徳と言えるであろう。

孔子が周の文王を褒め称えたわけです。

今の時代で考えてみれば、自民党から民主党に移る時に、民主党が凄まじい力を持ったけれども、自民党におやりなさいと勧めたのであれば、民主党は至徳と言ってもよさそうだが、自民党を足蹴にして天下を張って、自民党の二の舞をしていますから、とても至徳とは言えません。

ただ、廻り合わせで、民主党は日本を悪くする為に出てきたような政党だと私は思っていますので、民主党がやればやるほど日本の国力は落ちる。今は、日本の国力が衰退していくバイオリズムの中にいるので、如何せん、どう努力しても抗えない流れにある。世界全体で見ても、西洋文明が没落していくバイオリズムの中にいるのだから、これは致し方ない。西洋文明がどん底まで落ち込んで、どうにもならなくなったところで東洋文化・東洋文明がまた栄え始める。そういう流れになると思います。

【二十一】 子曰^{しいわ}く、禹^うは吾^{われ} 間^{かん}然^{ぜん}すること無^なし。飲^{いん}食^{しょく}を菲^{うす}くして、孝^{こう}を鬼神^{きしん}に致^{いた}し、衣服^{いぶく}を悪^あくして、美^びを黻^{ふつ}冕^{べん}に致^{いた}し、宮^{きゅう}室^{しつ}を卑^{いやし}くし、力^{ちから}を溝^{こう}洫^{きよく}に尽^{つく}せり。禹^うは吾^{われ} 間^{かん}然^{ぜん}すること無^なし。

孔子が言うには、禹の君は、私はまったく問題視する欠点がない。飲食を切り詰め、神様に供え物を差し上げる。衣服を質素にし、祭りの時の服装は素晴らしいものにする。宮室を粗末にし、治水には全力を注いだ。禹の君について、私はまったく非難することはない。

「溝洫」とは、田の間の水路です。今回の大雨によってダム湖がいくつも出来ていますが、そういうものも、禹であれば軽やかに片付けたことであろう・・・とこの文章を見ればよかろうと思います。

“どじょう”宰相誕生

今年の初めに、新聞を読む時に注意する3つのポイントを申しました。

一つは民主党が打つ無様な手をご覧になるとよいと申しました。二つ目は国債、三つ目は自然災害です。

民主党の打つ無様な手について申します。

野田さんが首相になって、期待感がかなり高まりました。それほど無様な出方ではないと思いましたが、よく考えてみると、鳩山さんと菅さんがあまりにも酷かったのが、凡庸な大将が出て来ているのにもかかわらず期待できるとしてしまった。前の二人が酷かったから、普通の人がよく見えたのだと今は感じています。

民主党とともに無様なのは東電です。原発事故から半年経って振り返ってみると、政府も東電も明らかに嘘をついていると露呈するものがいくつも出てきています。例えば、メルトダウンが起きていることを菅さんは承知していたにもかかわらず、公表しなかった。大嘘つきです。放射能汚染の予報は、日本国民には知らせないで外国向けには出していた。津波に関して、東電は震災の数日前には、＜津波は10メートルを超す恐れがある＞という報告を保安院に提出していた。ですから想定外ではなく、想定していたのです。にもかかわらず保安院はそれを握りつぶしていた。もたれ合いの構図が、半年経つと浮かび上がってきたなと感じました。

その結果、放射能汚染によって、本来は被曝をしないで済んだ人たちが被曝をしてしまった。群馬大学の教授が公表された数値だけを基に調べたところ、水素爆発をした時、放射能が風に乗って3方向に運ばれたと発表しています。それによると、群馬県はその3方向の一つに入っていて、前橋をしっかりと通っていました。東京は新宿をしっかりと通っていません。原発から円を描いて、円の中が放射能の汚染地域というのではなくて、風に乗って運

ばれた所がどこなのかが肝心なのです。静岡でお茶が出荷停止になったのは、風に乗って放射能物質が飛んでいったからです。

事故の後、アメリカをはじめ諸外国はすかさず自国民に母国に帰るよう指示を出したり、日本の南部に避難するよう勧告を出しました。最初に正確な事実を国民に流したから、国民は移動したのだという気がします。日本政府は、日本人には意図的に事実を教えなかった。小出しに情報を流していったという気がしています。

新聞を読む時は、だいたい半分半分と思って眉唾で読むとよろしい。テレビはもうちょっと酷いと思ってよいでしょう。更に政府の発表はもうちょっと酷い、色が付き過ぎていて怖いと感じます。昔の大本営発表のような感じで受け止めればよいと思います。

ですから民主党の打ち出す無様な手というものに、今度は“嘘をついているぞ”という色眼鏡をかけて見る必要があると私は感じています。

野田さんも最初は人柄が良くて朴訥で、真面目で嘘をつかないように見えました。就任演説の“雪だるま”(政権運営は坂道で雪だるまを押し上げて行く様なもの)の話はいいなと思いましたが、“どじょう”の話は、輿石さんを引っ張り出すための小細工に見えてきました。野田さんは25年間、駅前で演説をしていたから、どういう風な話の仕方をすればうけるのか、身体に染み込んでいるのでしょうか。ですから代表選の時に、それぞれの演説が全部中身が違って、キャッチフレーズもとれるような上手な話の仕方が出来たのだと今は感じています。

いずれにしても、どじょうに託して輿石さんを引っ張り出す作戦や、知らない間に小沢さんとも会談をしていたのですから、どじょうではなく狸ではないかと思います。初めに朴訥に見えたのが、“どじょう”が手練手管なのだと思って見ると、今、一つ一つ打っている手が何か透けて見えてきます。わずか4日間で国会を閉じるという話も、これから民主党内の不一致がどんどん露呈してくる一つの証しだと思います。

野田さんのやり方を見ていると、これから国民に負担を強いるものが沢山出てくると思います。ああいう低姿勢が、どうも怖いなと思います。今日の新聞、日経と読売を見ましたら、早々と、復興財源が11兆2000億円必要だから、臨時増税をする案をまとめたとありました。所得税を今現在の4%から5.5%くらい上乘せするとか、住民税は一律で1000円とか2000円UPといった案、タバコ税の増額等、どう決まるか分かりませんが、野田首相がリーダーシップをとって確実に増税路線を走り出しています。今回、消費税には手をつけないよう野田さんが指示して棚上げになったけれども、何と云うことはない。消費税は

別でお願いするのだから、今出してはもったいない、ご馳走は後で・・・という腹があらさまな感じがします。

いずれにしても確実に増税です。国民に負担を強いるのであれば、民主党が言ったマニフェストをもう一度見直して、なぜもっと自分たちの身を切ることを思い切ってやらないのか。公務員改革はほんの少々手をつけようとしているだけです。自分たちの議員報酬にしても、1割2割ではなく半分くらいを削るべきでしょう。公務員の給料も削って、切るべきものをどんどん切ってからでなければ、国民も納得しません。自分の身銭を切らないで、国民が付いていくものかと思っています。

昨日の本会議の質問で、江田さんが松下幸之助さんを引き合いに出しました。江田さんは野田首相が松下政経塾に入塾する時に面接をした人です。「松下翁は、国にお金がなくて困った時はむしろ大減税をすべきだと語ったが、どうなっているのだ」と質問をされて、野田さんは、「その時代と状況が違うから、今の時代には使えない」と答えていましたが、これは詭弁だと思います。山田方谷の「理財論」を読まれた方は十分ご承知の通りで、「国が滅びるもとは、増税苛税にある。重箱の隅をつつくような物にまで税金をかけるようになったら、その国は滅びる」と明確に書いています。これは時代が変わっても同じです。

今の野田さんの増税路線は、亡国路線だと感じます。10年間で11兆2000億円と言っていますが、これはあくまでも臨時の増税ということです。これが10年で終わると思いますか？ 臨時増税と言いながら、恒久増税ではないでしょうか。

臨時増税で一番良い例は、源泉徴収です。これはもともと臨時増税でした。戦争によって国民は税金を沢山とられるようになったのですが、戦争の費用を賄うために無理やり捻り出したのが、サラリーマンに源泉徴収という形で税金を取り立てる方法でした。臨時増税ですから、戦争が終わったら止めるという始めたものが、戦争が終わってもまだお金が必要だということで恒久になってしまった。

社会保険もそうです。最初は積立方式で始まったのが、いつの間にかそうではなくなり、課税方式に変わりました。日本という国家は、その時その時の状況に応じて、言ったものをくるりとひっくり返します。国は二枚舌どころか、三枚も四枚も舌を持っていると感じています。臨時増税だと言ったものが、いつの間にか恒久税に変わるということに対して、日本の国民には「政府の言うことはこれだから信用できない」とすり込まれるだろうと感じています。

自然災害について申します。

大変な大雨が全国的に降りました。5月20日に政府が調べて発表した、今後大雨によっ

て地すべりなどの危険があると予想された宅地は、全国に 1432 箇所ありました。山が崩れてくる危険のある斜面は、49 箇所ありました。発表したあとに、政府は何か手を打っているのでしょうか。今回の大雨で自然のダム湖が出来ましたが、やっているのは住民の避難だけです。何とかしなければいけないと言っても、どうしても後手に回ることになる。そういう仕組みで日本国内は回っているから、自然災害は起きて当たり前という状況になっています。それに予測をいくらしても、なかなか仕組みが追いついていないのが現状です。今回の震災で、政府はマグニチュードを最初は 8.8 と発表したけれども、その後すぐにマグニチュード 9 に修正しました。日本ではそれを測定する能力がないから、外国の基準に従って測定したところ M9 を超したという発表でした。しかし震災の 10 分後には、長野県の松代町にある気象庁精密地震観測室が、計測の結果が M9 以上であるという測定値を本庁に対して報告していたのです。ところが気象庁の中では、沢山の報告が来る中で埋もれてしまって分からなかった。わずか 10 分後には気象庁に報告されていたにもかかわらず、気象庁にその報告を受け取る仕組みがなかった為に、結果として握りつぶされてしまった。これはやはり嘘の中に入ってくると思います。ですから自然災害にしても後手に回っています。

国債に関しても、やはり後手に回っています。ただ、アメリカがあわや・・・というところまで行きましたから、アメリカと日本とデフォルトの競争をしているような感じがしています。

新聞をよく見ていると、民主党の無様な手・国債・自然災害、色々な形でピリッと来るものがある。人によってピリッと来るものは違いますから、それぞれピリッと来たものをずっと深く掘り下げる努力をされるとよいと思います。掘り下げるのに、ネットは役に立ちます。ピリッと来たものを掘り下げた後に、自分で考えることをすればよい。そうしないと新聞を活かして読むということには繋がらない。やはり読んだ後、自分の頭で考える必要があると思います。

4年後の上昇気流に乗るために・・・

最後になりましたが、今日ご紹介する本は『地球が教える奇跡の技術』石田秀輝著です。石田さんという方は、東北大学大学院環境科学研究科の教授で、他にも『自然に学ぶ粋なテクノロジー』『きみが大人になる頃に』という本を書かれています。これを見ると、やはりこれからは、太陽熱・風力・水力・地中熱・バイオ熱・・・これらのエネルギーをいかに

家庭で使いこなすかという点が重要だと感じます。私は以前から、日本のインフラが壊れるから自給自足体制を自宅で作りたいという話をしていましたが、そんなことはないと感じてもらえませんでした。しかし大震災後は、現実味を帯びました。皆様方も何か一つ、こういったエネルギーを掘り下げられるとよろしい。掘り下げて、実行するか否かは又今後の話になります。

ただ先ほど申し上げたように、4年後は上昇気流に乗ると思っていますので、これから3年半かけて、来るべき日本・近未来の日本を自分なりのイメージを考えて、それに対応して、上昇気流に間違いなく乗れるように、個人・家庭・組織を意識して作り変えを始められるとよろしいでしょう。

以上で本日の講話を終了します。有難うございました。